

読谷

中学校

普通に生活出来る大切さ

読谷中学校 一年

上原 うえはら

丸乃 まるの

「平和とはどういうことですか。」学校の平

和学習でよくこんな質問がある。今までの

私は、戦争がなく、みんなが笑顔で過ごせる

ことだと思っていた。だが最近、普段、当た

り前に生活出来ることが、平和でないと思

ないことだと気付くことが出来た。そう考

えられるようになったのは、中学生になっ

た。新聞がきっかけだ。

その新聞には、戦争で家族がばらばらに

なったり、学校の授業がなくなったりする等

今の時代では考えられない事が書いてい

た。私達と同じぐらいの年の子がこんな

に苦しい思いをしてきたかと思うと、私は

恵まれた時代に生まれてきたんだなと改め

て思った。また、沖縄戦での死者は約二十万

人以上だということも知った。この人数は、

私が住む読谷村の人口の約5倍の人達が亡

くなっているといえる。改めて考えると、家

読谷

中学校

族が一人亡くなるだけでも、とても辛いこと
 なのに、地域の人や自分の同級生が戦争で亡
 くなると思うと、頭や感覚がおかしくなり、
 どうして、自分だけ生き残ってしまっただのか
 と、自分を責めたり、誰にも相談出来ず、自
 ら命を落とすかもしれないと思っただ。
 私が、一番印象に残っているのは、戦後に
 起きたアメリカ軍関係の事件・事故だ。代
 表的な事故として、「宮森小ジェット機墜落
 事故」がある。この事故で、児童や地域住民
 十八人が亡くなり、二百人以上が負傷したとい
 う。私はこのような事故が、絶対起きてはい
 けないと思う。なぜなら、戦争で多くの死者
 が出ているのに、戦争体験者は、この悲しみを
 二度経験することになると思うからだ。
 やっぱり、戦争は良いことが一つもない他
 人間を悪魔のようにし、多くの死者を出す最
 悪なものだと思ふ。戦争を繰り返さないため
 に、地域の戦跡のことを知ったり、相手のこ
 とを考えて、思いやりを持って接していくこ

読谷

中学校

と等が、私達が出来る戦争を繰り返さない
 ための、第一歩だと思おうし、^{七十四}七十四年前にあつた
 沖繩戦のことを忘れず、次世代に伝えていけ
 る人になりたいと思おう。